令和4年度　学校評価報告書

小樽市立高島小学校
校長　篠崎　大作

1　本年度の重点目標

未来につながる力を育てる
～聞ける子、読める子、書ける子の育成～

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	アンケートで「授業中の考えを書いたり、話したりできる」と答える児童の割合を低学年80%、中学年85%、高学年90%にする。	B	後期児童アンケート結果から、低学年83%、中学年89.9%、高学年69.7%となっており、高学年の授業においてこれまで以上に意図的、計画的に「自分の考えを書く・話す」活動を取り入れる。	◎
		特別支援教育の充実	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童の指導計画の中間検証と見直しを100%行う。	A	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童全員の個別の指導計画を作成し、学期毎に校内支援委員会で成果と課題、新たな支援策について見直し、新年度の引継ぎ資料としても活用する。	◎
		国際理解教育の充実	外国語活動及び外国語の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を80%以上とする。	A	後期児童アンケート結果から、中学年及び高学年「楽しい・どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合が87.9%となっており、数値目標を達成している。さらに楽しい、わかる授業に取り組む。	◎
		理数教育の充実	算数・理科の学習が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した児童の割合を算数で80%以上、理科で90%とする。	A	後期児童アンケート結果から、算数で86%、理科で90.5%「楽しい・どちらかと言えば楽しい」と回答しており、数値目標を達成している。今後も楽しい・わかる授業のための工夫改善を図る。	◎
		情報教育の充実	「おたるスマート7」の児童アンケートにおいて、「名前や顔写真などの個人情報は公開しない」と回答した児童の割合を95%以上とする。	A	11月の児童アンケート結果から、96%の児童が「名前や顔写真などの個人情報は公開しない」と回答しており、数値目標を達成達成している。今後もPTAと連携し、「おたるスマート7」に加え「高島小スマート1(ONE)」の取組を強化する。	◎
		キャリア教育の充実	地域のお店や施設見学などで働く人の様子を学ぶ体験的な学習をオンラインや出前授業も含め全学年で100%実施する。	A	1年生「小樽水族館」、2年生「メグミルク・市立図書館」、3年生「栗原蒲鉾」、4年生「小樽市総合博物館(出前授業含む)」、5年生「水族館及び小樽市総合博物館出前授業」、6年生「租税教室(財務省出前授業)・硝子製作体験」など100%実施。	◎
改善方策		ユネスコスクール指定校(H25～)として、新たに夏季・冬季休業中のユネスコフェアを開催し、ALTによる英語教育を推進するとともに、学園制(専科制加配)指定校(R2～R4)を活用した教科担任制による授業を行うなど、国際理解教育及び理数教育の充実を図っている。また、北陵地区小中一貫の重点目標「未来につながる力を育てる」を達成するために、算数・数学、理科、外国語の単元配列表に加え新たに総合的な学習の時間の単元配列表を作成し、9年間を見通した教育課程編成を進めることにより、基礎的な学力の向上やキャリア教育等の一層の充実を図る。そして、今後もPTAとの連携により学力向上や家庭学習の定着など確実に進める。				
学校関係者評価委員による意見		キャリア教育について、新型コロナウイルス感染症の感染状況が改善されつつあるので、様々な機会を通して、子どもたちに経験をさせてあげたい。(自分の子どもが、大人になった今も楽しかったと話しているので。)				
2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に，肯定的な回答をした児童の割合を75%以上とする。	B	後期児童アンケート結果から「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合が60.9%であり、▲14.1%となっている。今後も児童会、学級の係など学校生活における様々な活動を通じて、子どもに達成感を味わわせ、教師・保護者が褒めたり認めたりすることにより自己肯定感を高める。	◎
		ふるさと教育の充実	社会教育施設や学芸員等の外部講師を活用したふるさと教育をオンラインや出前授業も含め4つの学年以上で実施する。	A	2年生「市立図書館」、3年生「小樽市総合博物館運河館」、4年生「小樽市総合博物館(出前授業含む)」、5年生「小樽市総合博物館出前授業」、6年生「第13回歴史的建造物スケッチ会-2022北海製罐第三号倉庫を描こう」など、5つの学年で実施。	◎
		読書活動の推進	児童アンケートにおいて、「読書が好きだ」という設問に，「きらい」と回答する児童の割合を10%以下とする。	B	後期児童アンケートにおいて、「読書がきらい」と回答する児童の割合が13.7%となり数値目標を▲3.7%下回った。児童会図書委員会やすくすく文庫と連携し、朝読書や読み聞かせなどの取組を工夫し、「読書の楽しさ」を味わわせる取組を進める。	◎
		体験活動の推進	地域の歴史や人・自然への理解を深める学習を、オンラインや出前授業も含め4つの学年以上で実施する。	A	3年生「小樽市総合博物館運河館」、4年生「小樽市総合博物館(出前授業含む)」、5年生「小樽水族館・小樽市総合博物館出前授業」、6年生「第13回歴史的建造物スケッチ会-2022北海製罐第三号倉庫を描こう」など4つの学年で実施。	◎
		コミュニケーション能力の育成	児童アンケート(28のSKILL)において、「お互いに考えを聞いたり、深めたりすることができる」と肯定的に回答した児童の割合を75%以上とする。	A	前期児童アンケートにおいて、肯定的に回答した児童の割合は93%となっており、数値目標を達成している。今後もコミュニケーション能力を一層高めることができるよう毎時間の授業において話合いや交流の場面設定を意図的・計画的に取り組んでいく。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合を95%以上とする。	A	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合は99.5%となっており、数値目標を達成している。	◎
改善方策		今年度全校統一で取り組んでいる生徒指導の三機能の1つ「自己存在感を感じる場・機会をつくる(褒める・認める)」を、学級経営、各教科の授業、学校行事、児童会活動等において今後も意図的、計画的に継続して取り組む。また、高島小「いじめ防止」プログラムに基づき、校内における情報共有、及び保護者、CS、関係機関等との連携を密にし、組織的・計画的に「いじめ」「不登校」の未然防止と早期発見・早期対応に努める。加えて、令和4年12月に新たに作成した「高島小スマート1(ONE)」について、保護者と学校が連携して取り組み、SNSによるいじめやトラブル等の早期発見・早期対応をすることで、いじめ防止と不登校の未然防止に繋げる。さらに、地域の教育素材及び人材を活用し、ふるさと教育の一層の充実を図る。				
学校関係者評価委員による意見		「ブックフェスティバル」では、子どもたちがワクワクしながら本を見ている様子を見ているだけで嬉しくなった。学校図書館をさらに充実させるためにも、ぜひ、学校図書館司書が配置されることを強く望む。また、ブックフェスティバルをPTAと連携し「地域のイベント」として育てていきたい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	児童アンケートにおいて、「スポーツをしたり、体を動かすことが好きか」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。	A	後期児童アンケートにおいて、肯定的に回答した児童の割合が90%となっており、全校統一の「スキップ運動」や体育科授業の指導法工夫改善、休み時間等の工夫(竹馬・けんけんぱなど)の成果が表れている。	◎
		食育の推進	児童アンケートにおいて、「毎日、朝ご飯を食べていますか」という設問に、「食べている・ほとんど食べている」と肯定的に回答する割合を95%以上とする。	B	後期児童アンケートにおいて、肯定的に回答した児童の割合が92.8%で▲2.2%となっている。中・高学年の割合は高いものの、低学年が約89%と低くなっており、家庭と連携した朝ご飯の推奨を一層進めていく。	○
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室を実施する。	A	3学期(3月8日)に第6学年で実施	◎
改善方策		「令和4年度体力向上改善プラン」に基づき、年間を通じて体育科授業における「1単位時間における十分な運動量の確保」と「休み時間等の工夫」に取り組んできた。特に運動量が低下する冬季間において、引き続き授業及び休み時間に運動量を低下させない取組(例:反復横跳び自己記録更新会)を全校統一で取り組む。また、「朝ご飯を食べる」についてもPTAと連携し、早寝・早起きと合わせて朝ご飯を食べる習慣の定着に向けた啓発活動を行う。				
学校関係者評価委員による意見		コロナ禍ということもあるが、昔と比較して、外で遊ぶ子が圧倒的に少なくなったのを感じる。元気に遊ばないと発育に影響があるのではないかと心配している。家でゲームばかりするのではなく、「外での遊び方」を教えないと遊べない時代なのかもしれないと危惧している。そのような中での本校の様々な取組は素晴らしいと感じた。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	年間複数回の生活リズムチェックシート(chromebook版含む)の活用を全学年で100%実施する。	A	10月17日(月)～10月28日(金)及び12月24日(土)～1月18日(水)に全学年において生活リズムチェックシート(chromebook版)を実施し、自己管理能力の育成に努めた。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	児童の読書習慣定着に向けて、地域団体と協働的に取り組み、「すくすく文庫」を月1回定期開催する。	A	読み聞かせサークル「すくすく文庫」を月1回定期開催し、1、2年生で延べ287名の児童が参加した。この取組により、子どもたちの読書への関心は高まっている。	◎
改善方策		生活リズムチェックシート(chromebook版)実施後、保護者会において個々に自分のお子さんのデータを確認していただくことで、家庭での生活習慣改善に対する意識を高めることができたため、冬季休業後も実施し、進級・進学に向け生活習慣の改善を図るとともに、次年度も継続して取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		コロナ禍において、読み聞かせボランティアサークル「すくすく文庫」の活動人数が制限され、1人にかかる負担が大きいのではないかと感じた。現在、徐々に制限が緩和されコロナ禍前の人数で活動できると一層活動の幅も広がると考えるが、学校図書館司書の配置がとても重要であり、安定的な配置を強く望む。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	北陵地区の小中学校の教職員が小中一貫を見据えた具体的な取組について検討する機会を年3回以上設定し、実施する。	A	8月18日(木)に高島小学校体育館において小中合同研修会を実施し、教育課程部会3回、学力向上部会1回のほか、28のSKILL改訂や総合的な学習の時間の単元配列表作成に関わる会議等を必要に応じて開催するなど、数値目標を達成した。	◎
		教育環境の整備・充実	ユニバーサルデザインを踏まえた教室環境整備及びタブレット端末等のICT機器の日常的かつ全ての教科の活用に全学級で取り組む。	A	ICT担当者が中心となり、研修部と連携しミニ研修を実施したほか、グループセッションから各教科等で活用できるICT教材情報を発信した。さらに端末活用推進チームから情報提供があったフラッシュカードを全学級で活用するなど、全ての教科、全学級で取り組んだ。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全学年での国語科・算数科研究授業を行うとともに、教職員の資質・能力の向上へ向けたミニ研修会を3回以上実施する。	A	全学年での国語科・算数科研究授業を実施したほか、Chromebookの利活用、ヤングケアラー、LGBTQ、水泳実技指導の他、SCによるカウンセリングや司書教諭による読書感想文の書き方など様々なミニ研修会を実施し教職員の研修意欲を高める工夫をしつつ資質・能力の向上を図った。	◎
		学校運営の改善	校務支援システム導入に向け、校務用パソコン(GS)を活用した効率的校務推進を進め、毎週金曜日を定時退勤日とする。	A	校務用パソコン(GS)を活用し、連絡等の情報を全てネットワーク上で対応することで、朝の職員朝会を廃止したとともに、職員会議で扱う内容を全てデータ化、及び内容を精選し時間短縮を図るなど効率的な校務推進を図った。また、毎週金曜日の定時退勤日は定着している。	◎
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室と防犯教室を実施する。	A	1年生の交通安全教室、情報モラル対策委員(ICT支援員)による全学年の情報モラル教室、ALSOK主催の防犯教室(3・5年生対象)を実施し、安全教育の充実を図った。	◎
改善方策		①9年間でめざす子ども像の実現するために、令和5年度に向けて小学校28、中学校33のSKILLの見直しを図っており、新たな28、33のSKILLを基に、次年度の北陵地区小中一貫教育のGD及び3校のGD、そして学校経営方針の作成を進める。②小中一貫教育推進委員会(中1ギャップ問題検討委員会)を中心に、学力向上、体力向上、生徒指導、不登校対策などの課題と改善方策を検討し取り組むなど、3校連携により学校運営を進める。③次年度に向け、総合的な学習の時間の単元配列表を作成する。(次年度のふるさと教育やキャリア教育の充実を図る)				
学校関係者評価委員による意見		ミニ研修の取組はとても良い。学校がヤングケアラーやLGBTは「いる」ことを前提とした対応をしていることに安心した。今後も学校・家庭・地域との連携により、対応していくことが大切である。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			市立図書館や博物館を利用した学習を2つの学年以上で実施する。	A	2年生「市立図書館」、3年生「小樽市総合博物館運河館」、4年生「小樽市総合博物館(出前授業含む)」、5年生「小樽市総合博物館出前授業」など、4つの学年で実施。	◎
改善方策		小樽市博物館・市立図書館をはじめとする市内文化施設を活用した学習に取り組むことができ、さらに、今年度は、CS、PTAとの連携により小樽運河ロードレースへの参加も積極的に行った。令和5年度は、施策項目29「文化財などの文化遺産の保存と活用」について、水泳学習や総合的な学習の時間等において向井流水法の学習活動を計画し、民族芸能伝承と泳力の向上を推進したい。				
学校関係者評価委員による意見		新しい体育館とプールの建設が予定されているが、この高島の地域にとって高島小プールは大変貴重な財産である。子どもたちやこれまで利用してきた市民の生涯スポーツ推進のためにもぜひ高島小学校プールを存続してほしい。加えて、水泳学習の中で小樽市指定無形文化財の「向井流水法」を取り入れていくことはとても素晴らしいことであるため、民族芸能伝承の観点からも高島小プールは存続させてほしい。				